

古井の川通信

思いやる子 考える子 がんばる子

学校便り



出部小学校

R5.6.12

梅雨の季節へと移り変わってきました。

コロナは5類へと移行しました。今後も状況を見極めつつ、教育活動を推進してまいります。引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。学校での教育活動は、少しずつコロナ前に戻したり、目的やねらいを考え、精選をしたりしています。6月からは、集会等全校児童が一堂に会することも行っていきます。

ありがとう! という言葉の意味

感謝やお礼の言葉として使われる「ありがとう」という言葉があります。「ありがとう」という言葉はどのような意味があるのでしょうか。「ありがとう」は本来「有ること」が「難しい」という意味をもっており、滅多にないことや貴重であることを指す「有り難し」という言葉が語源です。そのような出来事に対する感謝やお礼の言葉として使われているのが「ありがとう」なのです。

ありがとう! のもつ力

わたしたちは「ありがとう」という言葉を周りの人にどれだけ伝えているのでしょうか。また、この言葉にどれほどの力があるのでしょうか。「ありがとう」という言葉はとても大切な言葉として、自分も小さい頃から教えられてきましたし、ご家庭での子育てにおいてもそのように話されていると思います。残念ながら、どれだけの効果があるのかは、数値では計りませんが、「ありがとう」という言葉は、言われた人も言った人にも良い影響があるとされています。つまり「ありがとう」という言葉のもつ力は、無限大だと思います。

家族の中でもありがとう!

家庭内では、それぞれが何らかの仕事や役割を担っています。当たり前になにかをしたり、してもらったりしています。「言わなくても、分かってくれているだろう。」という気持ちがあるのも理解できます。しかし、そこから一歩踏み出して、照れくさいかもしれませんが、「ありがとう」と言葉にするだけで、今よりはるかに良い信頼関係が生まれると思います。これだけで子育ても仕事も頑張れる気がします。

ありがとう! と非認知能力の育成

井原市では、ひとつづくり事業の中で「非認知能力の育成」を掲げ、推進しています。「自己肯定感」や「自己有用感」または「学びに向かう力、人間性」など、数値では表すことができない能力を育成し、学力向上へと繋げています。

まさしく「ありがとう」の言葉のもつ力は、「非認知能力」を育てることに繋がります。「ありがとう」は人の心を動かし、人を成長させる言葉なのです。

がんばった運動会!

5月20日(土)に、出部小学校の運動会を開催することができました。子どもたちは、『心を一つに輝け出部魂』のスローガンを胸に、演技に競技にがんばりました。コロナ禍での開催でしたが、全校児童が自分の力を十分発揮できた運動会でした。



- ・だんすをがんばりました。おうちのひとに、「おどりのとき、いちばんかっこよかったよ。」といわれました。それがうれしかったです。(1年)
- ・一ばんたのしかったことはかけっこです。四いでくやしかったです。がんばったことはニャティティソーランです。おかあさんによるこんでもらえてうれしかったです。(2年)
- ・ぼくが心にくわしかったのは、デカパンです。はじめて感じた、「ほかの人とペースを合わせる」ということが学べてよかったからです。(3年)
- ・本番のダンスは、ドキドキしていたけれど、だんだん緊張しなくなって、楽しむことができました。練習のときにできていなかったところも、みんなバッチリでした。みんなで楽しむことのできた運動会だったので良かったです。(4年)
- ・難しかったダンスは旗の音をそろえて、やりぬくことができました。組体操の3人技や6人技も友達を信じて成功させることができてよかったと思いました。みんなと動きがそろった時がとてうれしかったです。(5年)
- ・クラスの心が一つになって、目標にしていたことが全部できました。友達と昼休みや業間を使って練習したからこんなに旗や組体操が上手くなったと思います。みんながいたからがんばれたので、信じる気持ちをこれからの生活に生かしていきたいです。(6年)
- ・運動会では、6年生全員が協力して演技をできたと思いました。ぼくが運動会を通して成長できたことは、友達を信じて協力し合うことです。友達を信じて旗のウェーブやバトンパスができました。これからの学校生活では、自分に自信をもって、普通の授業などでもがんばりたいです。(6年)